

宮城江古田会会報の始まり

2011年3月11日。東日本大震災後、電気・ガス・電話が途絶えるなか、偶然野田前学部長から「無事か、校友はどうか」との電話が偶然つながった。手分けして宮城江古田会会員を訪ね自宅・実家が津波、地震被災した会員多数であることが判明。

被災状況などを伝える「日芸みやぎ」発行に至った。

塚崎 隆夫

第22号 10月14日発行 第1号

日芸みやぎ

日本大学芸術学部校友会
宮城江古田会 ニュース

M9 東日本大震災 死者・行方不明者 2万人



2月11日 午後2時46分、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生。最大震度7の激震、間もなく10mを超える大津波が太平洋沿岸を襲った。気仙沼では大型船が内陸まで押し上げられ、破られた重油タンクから出た油で街中に火災が広がった。南三陸町では津波が2階建ての町役場防災倉庫庁舎を超え、屋上に避難していた職員が救えられず、石巻市では東田川を上川を遡った津波により、県内最大の4千人が犠牲になった。東松島市沿岸部に集合が無く、市街地の85%が焼失。仙台より南の市町には、海岸から数kmのところを徘徊している仙台東部・常盤まで津波が押し寄せた。



電灯がなくなってしまう18日、野田健人芸術学部長から、校友の被災を避けるお電話を頂き、後部東洋子校友会長からは、手紙でお見舞いたたきありがとうございました。東北各江古田会員と連絡が取れたものの互いに沿岸部会員の安否がわからない状況が続きました。

2月末になって会員10名の津波による降参帰郷、会員や県出身卒業生の実家被災は、相首家になることがわかりました。

この被災地取材報告書は、多くの関係者が協力して作成された。